5 長理第 3 号
令和 5 年 4 月 1 日

会員各位

（一社）長野県理学療法士会
会長　佐藤　博之
学術大会部　森本　正道

第 51 回長野県理学療法学術大会発表演題に対する表彰について

（一社）長野県理学療法士会 学術大会表彰規定に基づき、令和４年 7 月 22 日、11 月 26 日に第 51 回長野県理学療法学術大会の発表演題に対する学術表彰選考会議が開かれ、以下のように決定されましたので報告いたします。なお、表彰式は、本年度、第 52 回長野県理学療法学術大会にて開催します。

最優秀賞受賞演題（1 演題）

演 題 名：「新しい下肢荷重量測定器の開発とその信頼性に関する検討」
演者所属：健和会病院
演者氏名：戸崎 精

今まで動作時の荷重量測定評価は、高価な機器が必要であったが、新しく安価な評価ツールとして下駄型荷重測定器を開発されたことは、画期的なことと評価でき、独自性、貢献度は高い。また今回、医工連携の下で開発されたことは、今後の評価機器の発展に寄与するものである。今後、さらに開発・研究がなされ、臨床での有用性についてデータを積み重ねて研究されることに期待したい。

優秀賞受賞演題(2 演題)

演 題 名：「骨粗しょう症患者における脊椎圧迫骨折の既往が身体機能に与える影響について」
演者所属：のざわ整形外科
演者氏名：有井 一貴

圧迫骨折の患部のみならず、全身への影響について述べられていることは評価できる。理学療法を行うにおいて、全身の動作面にも広く視野を持ってアプローチすることは QOL の質を高めるために必要であり、そのために身体機能への影響を明らかにされたことは今後の診療に参考になる。

演 題 名：「当院地域包括ケア病棟入院した患者に対するリハビリテーション効果の検討」
演者所属：鹿教湯病院
演者氏名：樋口 登

ケア病床では、効率の良いアプローチを行い、最大の効果を出すことが要求される。効果が出にくい生活期のレスパイト入院患者に対し、集団でのアプローチに効果がみられたという発表であった。これは、他施設でも地域包括ケア病棟でのリハビリテーションの関わりを検討するにおいて大変参考になるものと思われる。今後、さらに効果があるアプローチ方法とその評価法について、細かい分析がされることを期待する。

学術奨励賞受賞演題(2 演題)

演 題 名：「術後 6 ヵ月で目標角度を達成する腱板修復術後早期の目標値」
演者所属：北アルプス医療あづみ病院
演者氏名：川上 祐衣香

（次の演題とまとめて講評）

演 題 名：「腱板断裂術後早期における目標角度の獲得に影響を及ぼす因子」
演者所属：北アルプス医療あづみ病院
演者氏名：浅田 凌雅

上記 2 演題は、数多くの症例についてまとめられて考察されている。腱板修復術後の理学療法を行う上で、経過を追いながら予後を予測するためにも、目標値を基準に進めることは大切なことであり、その点を明確にされたことは今後の理学療法に貢献できるものである。

特別賞受賞演題

受賞者なし